

従業員とのかかわり

従業員も重要なステークホルダーという認識のもと、従業員一人ひとりが安心して仕事に全力投球できる環境の整備に取り組んでいます。

雇用と処遇

ハリマ化成では、雇用機会均等と多様性を尊重し、人種、宗教、国籍、年齢、性別などによって差別しないことを基本方針としています。また、ホームページ、各種広報媒体を活用し、応募機会を広く提供しています。

ハリマ化成では、専門職制度を導入し「専門能力の発揮、活用を通じて企業価値の向上や業績向上に貢献する」人材像を明確化するとともに、専門能力とその成果を反映した処遇ができるようにしています。

人材育成

ハリマ化成では、従業員一人ひとりの能力向上を支援するために教育研修にも力を入れています。また、自己啓発を支援するため通信教育や語学研修費用の一部補助を行っています。

[主な研修プログラム]

- 新入社員研修(フォロー研修含む)
- 選抜研修
 - ・幹部候補者研修(上級職クラス)
 - ・経営幹部候補者研修(管理職クラス)
- リフレッシュ研修(2年目社員研修)
- 昇格者研修
- 役職者研修
- 管理職研修

評価、報酬制度

ハリマ化成では、「人を大切にするグローバルカンパニー」を目指す組織風土の醸成、次代を担う人材の育成に資する制度として、成果だけでなく、行動評価(プロセス)を評価項目として取り入れ、更にはチャレンジに対して、その努力にも報いる加点主義を基本方針とした透明性の高い評価制度を導入しています。

従業員は、役割責任にリンクした行動評価基準の公開により、一人ひとりが担っている職務に対して求められる行動、能

力、資質を理解し、自らが育成課題を掲げ、その結果が報酬に反映されます。また、現在の役割基準を上回るチャレンジ課題に挑戦する制度を設けており、このチャレンジ課題は未達成であっても評価の減点はなく、達成すれば加点する制度として運用しており、果敢にチャレンジできる風土の醸成と人材育成のスピード化を図っています。

成果主義に束縛されず、行動評価とチャレンジ課題への挑戦を通して、働きがいのある環境を整備しています。

福利厚生

ハリマ化成では、従業員が持てる能力を最大限発揮できる環境を作り出すための福利厚生制度や、従業員自身が病気になったり、家族の介護が必要になったときなど、いざというときのセーフティネットとなる制度も整備しています。

2004年10月に導入した長期休業補償制度は従業員が病気やケガで就業できなくなった場合に、収入の減少をカバーし家族の生活をサポートするための制度で、社会保険での補償期間18ヶ月を超えて就業できない状態が継続した場合に、最長満60歳まで収入をカバーする制度です。本制度では会社が基準給与月額60%を補償し、従業員の任意加入上乗せにより最大基準給与月額の90%が補償されます。また、本制度では長期休業者への復職支援も行っています。

安全をすべてに優先させるという基本理念のもとに、働く人の安全と健康を確保する取り組みを行っています。

安全活動

労働災害を撲滅するために安全教育をはじめKYT,ヒヤリハット運動、安全パトロールなどのさまざまな活動を行ってきました。2005年度は、無休事故の件数を低減できました。

安全件数推移グラフ 年度集計は1月～12月



安全記録の更新

加古川地区においては、2006年3月27日に休業無災害日数2,000日を達成したのを記念し、2000日達成モニュメントを設置しました。次なる目標2,500日に向けて社員一人ひとりがベクトルを合わせて、安全活動に取り組んでいます。



休業無災害 2,000日達成式典 (2006.3.27)

安全教育



安全防犯講演会 (2005.4.18)



新入社員教育(初期消火) (2005.4.18)



衛生講演会 (2005.10.4)

安全意識の高揚



春の全国交通安全週間の立哨 (2005.4.6)



職場の事例を用いたKYT競技会 (2005.12.9)

【注釈】

KYT:危険のK、予知のY、トレーニングのTとそれぞれの頭文字を取ったのがKYTです。作業にかかる前、ミーティングでその作業に潜む危険を短時間で話し合い、これに対する対策を決め行動目標を立て、一人ひとりが指差呼称しながら実践するプロセスです。

社会とのかかわり

ハリマ化成は財団活動等を通じて、科学技術の振興、芸術・文化活動の支援や人材育成などに注力しています。

松籟科学技術振興財団

財団法人松籟科学技術振興財団(理事長:長谷川吉弘当社社長)は当社の創業者、長谷川末吉現名誉会長が長年のトール油事業における功績が認められ、1982年に科学技術庁(現文部科学省)より「科学技術功労者賞」を受賞したのを機に、1983年に設立されました。以来、①科学技術に関する調査・研究およびこれらに対する助成、②国際交流に対する助成、③科学技術の振興に業績を挙げた者に対する表彰などの助成を目的として事業を展開してきました。

設立以来23年間で延べ454件、総額5億660万円を助成してきました。ノーベル化学賞を受賞した野依良治博士は第4回(1986年)に助成を受けています。

本年度も86件の論文応募を受け厳正な選考の上、16編の研究

に助成金を贈呈しました。

今後も、ハリマ化成の使命として、また財団の助成を通じて、各界の英知を集結して、エネルギー開発や生命科学の応用を推進し、科学技術の振興、そして世界文化の発展に寄与していく事業活動を強化し、社会の発展に貢献していきます。



長谷川理事長と助成を受けた研究者16名

設 立:1983年3月1日
所管官庁:文部科学省
基 本 金:5億4千25万円

地域の芸術・文化活動への協賛

松風ギャラリーは、長谷川名誉会長が造詣の深い絵画と音楽など芸術文化の振興を目的に私財を投じて建設し、兵庫県加古川市に寄贈しました。ハリマ化成、ハリマ観光、ハリマ食品の各社もこれに賛同し、一部を寄贈しました。

同ギャラリーは加古川市立のギャラリーとして1994年5月1日に開館し、音楽専用ホールなどのハイクオリティーの文化施設を活用することによって、芸術文化の振興を図り、魅力ある豊かな地域社会づくりに貢献しています。

また、同ギャラリーは“鶴林新道”に面し“松風こみち”に出会ったところにあり、長谷川

名誉会長は、これらの道の建設に合わせ、加古川市の市木の黒松、市花のつつじの街路樹を寄贈、これが今では立派な街路樹となっています。

ハリマ化成は、加古川市の主催する「川の絵画の大賞展」の協賛企業としても地域の芸術文化の振興に貢献しています。

また、地元の花火大会、能会等への寄付も行っており地域のコミュニティに貢献しています。



「松風ギャラリー」

鉄筋コンクリート造り地上2階地下1階
建築面積 350㎡ 延べ床面積 640㎡
主な設備:音楽ホール(最大100人収容)
展示場(1F)、美術品収蔵庫(B1)

「松の化学」翻訳出版

創立45周年を記念して、書籍「Naval Stores」の翻訳出版を行いました。翻訳のタイトルは「松の化学」とし、上下巻合わせて1400ページ、28章からなり、松の化学の百科事典とも言えるものです。本書は販売するとともに、全国の大学、研究機関、図書館等に寄贈しました。



「松の化学」

環境問題に取り組むには、社員一人ひとりが環境に対する高い問題意識と正しい理解をもつ必要があり、環境教育の重要性を認識しています。また、近隣の学校から工場見学を積極的に受け入れ、環境学習を通じて交流を図っています。

環境月間(6月)の取り組み



6月の環境月間にちなみ、バイオマスボイラーの屋上に横断幕を配し、従業員の環境意識向上を図りました。



年間活動実績の発表会 (ISO14001 取得工場参加) を開催し、活動の横展開を図りました。



北海道工場では、スチームトラップの点検、交換を重点的に行い、安全、省エネに取り組みました。



仙台工場では、工場周辺の清掃を行い環境美化に取り組みました。



加古川製造所では「知ろう、学ぼう、考えよう地球温暖化」のビデオを鑑賞後、環境に関する講演を聴講しました。(2005.6.22)

関連会社の環境教育



桂林播磨化成有限公司の指導者を加古川に招待し環境および安全について教育を実施しました。(2006.2.1)



杭州杭化播磨造紙化学品有限公司の指導者を招待し加古川にて環境への取り組みおよび工場見学で教育を実施しました。(2006.2.27)



ハリマテック, INC. (米国) を訪問し、ISOおよび環境取り組みを説明、教育を実施しました。(2005.9)



営業部門に対し、環境関連の法律を中心に環境教育を実施しました。(2005.7.4)

近隣学校の工場見学



近隣小学校の5年生約80名が工場見学をしました。勉強して新聞を作るど熱心に話を聞いていました。(2005.11.11)



近隣中学生が「トライやる・ウィーク」で各職場を体験しました。特に紙を作るプロセスに興味深く見入っていました。(2005.6.6~10)



インターンシップ制度として高校生が職場実習を体験しました。(2005.11.7~11)



近隣の高校から工場見学。(2005.8.22)

近隣小学校5年生からの感想文の一例紹介

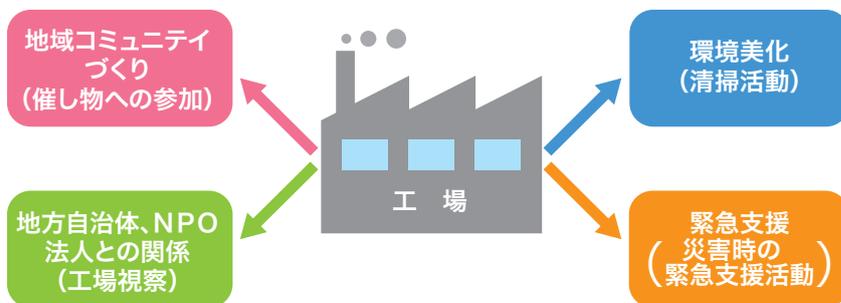
ハリマ化成ではどんな物を作っているのかなと思っていたけど、松を大切にしているし松でロジンを作っていることがわかった時、とてもびっくりしました。それにロジンは結晶のようでとてもきれいでした。おみやげとしてもらった時いいのかなと思ったけど、とてもうれしかったです。松ぼっくりもとても大きくてお母さん達に見せたり、話をしたら、とてもびっくりしていました。もう一度行きたいです。それと「ありがとうございました」。

社会とのコミュニケーション

「地域とともに発展することが企業の使命である」との認識にもとづき、地域の皆様や社員とのよりよい関係づくりを心がけています。

情報開示

工場視察を通して当社の事業活動や環境への取り組みなどを紹介し、社会の一員として、地域の一員として相互理解を深めています。



日本最大級の省エネ、新エネに関する展示会 ENEC2006 が大阪で開催されました。「省エネ Study&Tour」が企画され、参加者は当社の省エネへの取り組みを聴講したあと加古川製造所に移動、工場視察を行いました。(2006.2.16)



(財)ひょうご環境創造協会より当社の環境への取り組みや循環型社会形成のために導入している技術について視察に来られました。ビデオ、工場視察のあと積極的な質疑応答がありました。(2006.3.2)



加古川市で「ふれあいウォーキング」が開催され、参加者はそのルートとなった加古川製造所に立ち寄り工場見学を楽しみました。(2005.6.19)



加古川市環境保全研究会エネルギー部会のメンバーが工場視察に来られ、バイオマス発電を中心に視察されました。エネルギー部会の会長として当社社長があいさつしました。(2006.3.23)



年末に全員参加で加古川製造所の周辺の清掃を実施しました。(2005.12.29)



大震災への対応も怠らず、日常業務の中で企業防災を心がけています。

加古川製造所での総合防災訓練(2005.12.5)

2005年度の総合防災訓練では、大災害を想定し、衛星通信を利用した連絡網を整備して、ブラジル工場との連絡を実施しました。また、漏洩原料の危険性などのデータを瞬時に取り出し、化学品漏



自家発電設備を設置し、災害発生時、近隣住民に対して電気、水の供給を行えるよう復旧支援活動を行います。



すべての従業員が初期消火に携われるよう女性事務員も練習に参加しました。

洩事故に対する対応訓練を行いました。今回は、特に災害時に付近住民のライフラインを確保するため、工場内に3台の非常用自家発電機を設置し210Vで90KW(一般家庭約200軒分)を発電、



災害発生時、電話が使用困難なため衛星電話を設置しました。訓練時、ブラジルの関連会社と電話連絡を行いました。



救急処置訓練としてダミー人形を用いた心肺蘇生を行いました。

変電装置で一般家庭用の100Vに変換し、災害時に地元住民の避難場所に電力を供給するほか、工場内の井戸から1時間当たり30トンの水をくみ上げることができる体制を整えました。



加古川東消防署の協力のもと放水、救出訓練を行いました。

東京工場での防災訓練(2006.2.24)



近隣消防署、隣接する会社からの参加をいただき、防災訓練を行いました。



訓練後、地震体験車に乗り、地震再現を体験し、関東地区の大地震に対する心構えを新たにしました。

茨城工場での防災訓練(2005.11.28)



近隣消防署の参加のもと、防災訓練を実施。危険物災害に対し効果的な初期消火活動の重要性を再認識しました。

サイトレポート ハリマ化成 国内事業所

加古川製造所、中央研究所、ハリマM.I.D

所在地 兵庫県加古川市野口町水足671-4
電話番号 079-422-3301

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kl	2,583	2,501	2,519	2,688	3,353	25%
燃料(化+バイオ)	原油換算 kl	12,479	13,053	12,110	12,105	19,384	60%
CO ₂	t-CO ₂	7,898	8,099	7,893	8,206	1,558	-81%
NO _x	kg	38,400	27,300	20,100	20,800	43,400	109%
SO _x	kg	65,800	69,400	70,600	61,400	45,000	-27%
排水量	m ³	456,299	484,336	397,660	405,910	458,509	13%
COD	kg	2,040	1,889	1,233	1,380	1,926	40%
廃棄物発生量	t	2,455	2,681	2,521	2,690	2,457	-9%
社外処理量	t	1,129	1,296	1,310	1,439	1,212	-16%
最終埋立量	t	171	144	123	110	64	-42%
大気排出量	kg	9,599	6,265	4,447	3,800	4,149	9%
移動量	kg	8,910	9,469	7,694	7,330	10,950	49%

富士工場

所在地 静岡県富士市比奈311-9
電話番号 0545-38-2254

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kl	1,175	1,142	1,167	1,289	1,236	-4%
燃料(化+廃油)	原油換算 kl	2,468	2,449	2,550	2,641	2,672	1%
CO ₂	t-CO ₂	8,178	8,154	8,460	8,852	8,876	0%
NO _x	kg	3,653	3,597	3,737	4,080	4,056	-1%
SO _x	kg	160	170	740	190	270	42%
排水量	m ³	157,440	157,500	158,400	194,730	129,913	-33%
COD	kg	1,716	1,449	539	682	259	-62%
廃棄物発生量	t	2,685	1,687	1,685	1,506	1,555	3%
社外処理量	t	1,042	502	437	233	266	14%
最終埋立量	t	13	0	0	13	0	-100%
大気排出量	kg	892	213	203	218	209	-4%
移動量	kg	130,122	198,064	40,039	3,926	3,344	-15%

東京工場

所在地 埼玉県草加市稲荷6-18-1
電話番号 048-931-4311

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kl	502	461	426	425	406	-4%
燃料(化+廃油)	原油換算 kl	1,616	1,426	1,330	1,290	1,347	4%
CO ₂	t-CO ₂	5,091	4,541	4,222	4,118	4,283	4%
NO _x	kg	2,409	2,197	2,133	2,020	2,104	4%
SO _x	kg	986	899	863	827	862	4%
排水量	m ³	108,792	97,419	75,937	69,467	62,266	-10%
COD	kg	544	380	334	285	268	-6%
廃棄物発生量	t	1,851	1,468	1,329	1,318	1,302	-1%
社外処理量	t	456	322	286	238	252	6%
最終埋立量	t	24	7	0	0	0	0%
大気排出量	kg	229	7,654	4,147	3,244	3,019	-7%
移動量	kg	165,742	24,450	22,190	5,930	20,661	248%

茨城工場

所在地 茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里13-1
電話番号 029-889-2911

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kl	155	153	152	154	169	10%
燃料(化+廃油)	原油換算 kl	432	502	494	479	512	7%
CO ₂	t-CO ₂	1,389	1,591	1,568	1,527	1,656	8%
NO _x	kg	674	695	679	712	722	1%
SO _x	kg	437	450	439	379	473	25%
排水量	m ³	37,190	40,297	45,616	35,296	42,012	19%
COD	kg	179	206	201	141	176	25%
廃棄物発生量	t	438	412	460	381	437	15%
社外処理量	t	53	20	10	11	12	9%
最終埋立量	t	1	0	0	0	0	0%
大気排出量	kg	5,778	5,119	4,983	3,252	3,812	17%
移動量	kg	0	0	0	0	0	0%

北海道工場

所在地 北海道白老郡白老町字石山27-5
電話番号 0144-83-2205

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kℓ	161	100	97	88	89	1%
化石燃料	原油換算 kℓ	422	320	248	318	299	-6%
CO ₂	t-CO ₂	1,351	1,000	803	977	934	-4%
NOx	kg	869	659	510	655	622	-5%
SOx	kg	211	160	124	43	36	-16%
排水量	m ³	—	2,204	1,984	3,098	2,821	-9%
COD	kg	—	441	536	1,208	649	-46%
廃棄物発生量	t	39	69	87	113	143	27%
社外処理量	t	38	69	30	56	71	27%
最終埋立量	t	38	35	8	21	33	57%
大気排出量	kg	638	638	65	69	69	0%
移動量	kg	0	0	2,300	0	0	0%

仙台工場

所在地 宮城県岩沼市末広1-2-1
電話番号 0223-22-1201

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kℓ	56	50	52	52	73	40%
燃料(化+ハ`付)	原油換算 kℓ	120	94	95	100	120	20%
CO ₂	t-CO ₂	399	323	329	343	431	26%
NOx	kg	248	193	195	206	250	21%
SOx	kg	1,324	104	126	134	204	52%
排水量	m ³	1,565	1,630	2,109	1,792	2,095	17%
COD	kg	142	175	70	36	153	325%
廃棄物発生量	t	34	31	38	44	58	32%
社外処理量	t	19	24	30	36	51	42%
最終埋立量	t	0	10	0	0	0	0%
大気排出量	kg	0	1	2	4	10	186%
移動量	kg	0	0	0	0	0	0%

四国工場

所在地 愛媛県四国中央市村松町365-1
電話番号 0896-24-1001

項目	単位	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kℓ	24	30	28	30	35	17%
燃料(化+ハ`付)	原油換算 kℓ	68	80	66	66	65	-2%
CO ₂	t-CO ₂	216	256	218	221	225	2%
NOx	kg	141	164	137	137	134	-2%
SOx	kg	841	309	553	704	690	-2%
排水量	m ³	54,353	51,719	53,567	54,476	46,820	-14%
COD	kg	109	155	54	109	94	-14%
廃棄物発生量	t	15	17	11	6	3	-50%
社外処理量	t	14	16	11	6	3	-50%
最終埋立量	t	1	1	1	0	0	0%
大気排出量	kg	41	25	18	18	18	0%
移動量	kg	0	0	0	0	0	0%

ハリマ化成オフィス関連

集計範囲 大阪本社、東京本社、筑波研究所
名古屋営業所、中国営業所

項目	単位	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kℓ	135	157	157	0%
CO ₂	t-CO ₂	200	233	234	0%
廃棄物発生量	kg	7,375	5,910	3,390	-43%

国内関連会社

集計範囲 ハリマ観光、ハリマメディカル
セブンリバー、ハリマ化成商事

項目	単位	2003年度	2004年度	2005年度	04/05増減
電気	原油換算 kℓ	870	833	810	-3%
化石燃料	原油換算 kℓ	91	95	92	-3%
CO ₂	t-CO ₂	1,356	1,311	1,514	16%
排水量	m ³	84,299	67,708	69,088	2%
廃棄物発生量	t	147	147	135	-8%
リサイクル量	t	66	69	52	-25%